

県教頭会だより

No.2

平成30年9月19日

福岡県公立小学校教頭会

(編集：事務局)

研究深化の秋へ

福岡県公立小学校教頭会
会長 白水 隆暢

残暑厳しい折、副校長・教頭先生におかれましては、自校や所属地区の発展のために日々ご活躍のことと拝察いたします。さて、福岡県小学校教頭会では、今年度も多数の副校長・教頭先生方に九州・全国大会への参加をお願いしました。他県の取組で学ぶべき実践例を各地区や自校に持ち帰り、学校運営の質の向上に活かしていただきたいと思います。県内では、これから各地区大会が開催され、12月26日には北九州市の「ウェルとばた」にて県大会が開催されます。各校の交流を通して研究が深化していく、実りの秋となりますように期待しています。

第1回 全国研究部長会 報告

福岡県公立小学校教頭会
研究部長 中原 英之

日時 平成30年7月5日(木)・6日(金)

場所 東京都 都市センターホテル

内容

(1) 全体会(1日目)

- 平成30年度 全国公立学校教頭会研究推進の基本的な考え方
第11期「全国統一研究主題・研究の重点」と「研究の手引き」をもとに説明
- 講話・演習
演題 「本気で進める働き方改革と教職員の学び」
講師 文科省学校業務改善アドバイザー 妹尾 昌俊 氏
副校長・教頭として働き方改革にどのように取り組んでいくのか次のことを実施してほしい。

- 1 なぜ働き方改革があるのか、まず教職員に納得させていく(次に保護者や地域に)
- 2 改善に向けたアイデアを出す場の設定(さまざまなアイデアを出し合う)
- 3 学校のビジョン、重点課題から、自校の教育活動の優先順位を決めて行動していく
- 4 教師の学び(主には授業力と学校経営力の向上)を促進するコミュニティや仕掛けを作る

(2) 全体会(2日目)

- 全国大会(第61回北海道大会、第62回滋賀大会)に向けて
- 各ブロックから、働き方改革実施についての現状と課題

第1回 全国要請部長会 報告

福岡県公立小学校教頭会
調査要請部長 井手 淳一

日時 平成30年7月12日(木)・13日(金)

場所 東京都 都市センターホテル

内容

(1) 全体会(1日目)

- 要請文の解説と現在の課題
- 平成29年度全公教調査報告
- 講演 「教育行政の立場から見た現在の課題と今後の方向性」
講師 文部科学省 初等中等教育局 財務課長 合田 哲雄 氏

(2) 全体会(2日目)

- グループ別討議会, 報告

(3) 要請活動

- 福岡3区選出古賀篤衆議院議員の事務所訪問

第60回 全国公立学校教頭会研究大会 報告

福岡地区 糸島市 研究部長
南風小学校 教頭 高瀬雄大

日時 平成30年8月1日(水)～3日(金)

場所 北海道 札幌コンベンションセンター 他

内容

- (1) 全体会(1日目) ○ シンポジウム「豊かな心とたくましく生きる力を育む活力ある学校づくりの推進」
コーディネーター 勝野 正章 氏 東京大学大学院教育学研究科教授
シンポジスト 野村 文吾 氏 株式会社十勝バス 代表取締役社長
シンポジスト 阿部 雅司 氏 リレハンメル冬季オリンピックノルディック複合団体金メダリスト
シンポジスト 安部 恭子 氏 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
- (2) 分科会(2日目) 6課題8分科会+2特別分科会
- (3) 全体会(3日目) ○ 記念講演 演題 「組織の活性化を実現するナンバー2の役割」
講師 白井一幸 氏 野球評論家(前北海道日本ハムファイターズ ヘッドコーチ)

<全国・北海道大会に参加して>

研究大会の初日には、「豊かな心とたくましく生きる力を育む活力ある学校づくりの推進」というテーマでシンポジウムがあり、十勝バス社長の野村文吾氏から「社員を愛することで自発的活動が生まれる。良い習慣を身に付け、人格と習慣を区別して部下を育てることが大切。常に建設的な意見が生まれる風土を醸成するため、家族のように部下を愛することをモットーとしている。」という話をいただいた。教頭の人材育成も、同じだと感じ、今後の校務運営に生かそうと思った。

分科会では、10の分科会に分かれてそれぞれ提案者からの提言が行われた後、課題に添って少人数での意見交流が行われた。「教育環境整備に関する課題」をテーマとした分科会では、宮崎県と北海道の教頭会から提言があった後、少人数グループでの協議があった。災害時の避難訓練を地域連携で行ったり、短時間の豪雨で途中下校の実施を判断する情報収集を行ったりなど、危機管理の中心として教頭が果たす役割の大きさを改めて痛感させられた。

第57回 九州地区公立学校教頭会研究大会 報告

北九州地区 鞍手区 研究部長
宮田北小学校 教頭 藤田尚子

日時 平成30年8月28日(火)～29日(水)

場所 長崎県 長崎ブリックホール大ホール 他

内容

- (1) 分科会(1日目) 第1B分科会「教育課程に関する課題」
○ 提言1
・テーマ「市の教育施策を活用した学力向上の取組～授業力の向上を目指した組織的な取組を通して～」
・提言者 北九州市則松小学校 長野 智英 先生
○ 提言2
・テーマ「外部環境の支援的要因を活かした教育活動の充実と実践～小・高や外部団体等との連携における教頭の関わり～」
・提言者 大分県由布市立湯布院中学校 安東 勝利 先生
○ 提言3
・テーマ「学校の特色を生かした教育課程の工夫～学校教育目標の具現化のための副校長・教頭としての関わり～」
・提言者 長崎県佐世保市立江上小学校 吉田 春樹 先生
- (2) 全体会(2日目) ○ 記念講演 演題 長崎の「和華蘭」文化と国際理解教育
講師 ブライアン・パークガフニ 氏 (長崎総合科学大学教授)

<九州・長崎大会に参加して>

提言1では、市の教育施策の伝達が学校現場に確実になされ、学校において教頭がその企画に関わることは大変意義深いことが分かった。教育現場に、その教育施策の主旨が伝わり、教頭を中心に組織的な取組をすることで、教員はやらされ感がなくなり、積極的な授業力向上や人材育成がされていることが参考になった。

提言2では、学校の強みをSWOTで分析し焦点化して、地域と目標を共有した「社会に開かれた教育課程」が進められていた。教頭が持続可能な組織を目ざし、学校の強みを生かして地域をリードし、教育活動の充実へつなげることの大切さが十分伝わり、今後役に立つものと思った。

提言3では、各学校の学校教育目標の具現化のための研究の視点を「生かす」「高める」「整える」の3つのキーワードとして教頭の関わり方を工夫されていた。その中でもキャリア教育、カリキュラムマネジメントを率先して進め、子どもにどのような資質・能力をつけるのかを明確にして教育課程を工夫していく点を取り入れていきたいと思った。

記念講演では、国際理解とは、形式的な人と人との出会いではなく、ふれあいから始める大切さが分かった。

Face to Faceのつきあいで切磋琢磨しながら、どのように、世界と付き合う子どもを育成するのか考慮することが今後のグローバル化に向けて大切さであることについて示唆をいただき、参考になった。